

# 平成20年度病害虫発生予察注意報第4号

平成20年7月11日  
鳥取県病害虫防除所

## 注意報の概要

カメムシ類の発生が多く、果実被害の発生が懸念される。今後、気温が高まるにつれてカメムシ類の活動が活発になることが予想されるため、発生がみられた場合は防除を徹底する必要がある。

## 病害虫名：果樹カメムシ類

- 1 対象作物 果樹全般
- 2 発生地域 県下全域
- 3 発生時期 平年並
- 4 発生量 多い
- 5 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯などにおけるカメムシ類の誘殺数は、7月上旬に急激に増加し平年と比較して多くなった(表1及び2)。特に、主な加害種であるチャバネアオカメムシ、クサギカメムシの誘殺数が、カメムシ類の被害が多発した平成16年に次いで多い地点が認められており、今後、ナシ園への多飛来及び果実被害が懸念される。
  - (2) 向こう1か月の気象予報によると、カメムシ類の活動に好適な条件である。今後、夜温が高まるにつれてカメムシ類の活動が活発になり、ナシ園への飛来が予想される。
- 6 防除上注意すべき事項
  - (1) 被害や飛来状況は、ほ場間差が大きいため、園内外をこまめに見回り早期発見に努め、被害果実やカメムシ類の発生が多い場合は早急に防除を行う(ネオニコチノイド系及び合成ピレスロイド系殺虫剤などを中心に選択)。特に、多発年に早期被害を受けた地域では注意する。また、地域内の情報共有を徹底する。
  - (2) 防除は、カメムシ類が飛来する夕方か早朝が効果的である。また、移動性が高いため、広域的な防除に努める。
  - (3) 例年、第1世代成虫が発生する7月下旬頃が果樹園への飛来量が増加する時期となるが、多発生年の場合、7月上旬頃から果樹園への飛来量が増加した事例があるので注意する。
  - (4) 合成ピレスロイド系殺虫剤の多用は、カイガラムシ類及びハダニ類の発生を助長した事例があるので、必要最小限の使用にとどめる。
  - (5) 各樹種の防除薬剤は表3を参考とする。また、農薬の使用基準を遵守するとともに、使用上の注意事項を守り、散布作業等者の安全の確保に努める。

表1 1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
6・上	34	10.3	4	10.7	3	0.9	20	2.0
・中	99	121.9	28	22.4	4	2.9	72	23.0
・下	28	144.7	10	61.9	1	3.4	25	35.2
7・上	1,102	249.2	125	106.7	9	6.2	146	70.9
・中		246.4		159.7		8.0		70.3
・下		259.3		181.6		9.8		78.9

\*平年：平成10～19年

表1 - 2 予察灯におけるクサギカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町		鳥取市河原町		湯梨浜町		北栄町	
	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*	本年	平年*
6・上	1	1.6	0	1.5	0	0.0	1	0.0
・中	11	11.6	2	1.8	0	0.1	0	0.1
・下	0	11.8	0	6.7	0	0.1	0	1.8
7・上	136	26.7	8	10.0	1	0.6	9	3.9
・中		58.9		40.6		1.5		22.4
・下		95.7		115.9		3.2		23.2

\*平年：平成10～19年

表2 集合フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ誘殺数（頭）

月・旬	八頭町				北栄町	
	*		*		本年	平年***
	本年	平年**	本年	平年**		
6・上	16	9.7	26	14.6	20	14.4
・中	28	33.6	18	66.3	24	17.8
・下	13	49.1	13	86.6	12	14.4
7・上	137	157.6	615	264.4	37	25.4
・中		184.9		328.4		17.2
・下		178.9		236.0		15.6

\* ... はヒノキ林内、 は と果樹園との中間点の水田畦畔に設置

\*\* ...平年値：平成11～19年、平成12～19年の平均値

\*\*\* ...平年値：平成15～19年の平均値

表3 果樹カメムシ類の主な防除薬剤と使用基準\*

作物	薬剤名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	薬剤の系統	
ナシ	スプラサイド水和剤	1,500	有袋7日前	3回	有機リン系	
			無袋45日前	2回		
	スミチオン乳剤	1,000	有袋14日前	6回		ネオニコチノイド系
			無袋21日前			
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又は スタークル顆粒水溶剤)	2,000	前日	3回	合成ピレスロイド系	
	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	前日	3回		
アグロスリン水和剤	1,000 ~ 2,000	前日	3回			
MR・ジョーカー水和剤	2,000	14日前	2回			
カキ	スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000	45日前	3回	有機リン系	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又は スタークル顆粒水溶剤)	2,000	前日	3回	ネオニコチノイド系	
	アグロスリン水和剤	1,000 ~ 2,000	前日	3回	合成ピレスロイド系	
リンゴ	スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000	30日前	3回	有機リン系	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又は スタークル顆粒水溶剤)	2,000	前日	3回	ネオニコチノイド系	
	MR・ジョーカー水和剤	2,000	14日前	2回	合成ピレスロイド系	
モモ	スミチオン水和剤40	800 ~ 1,000	3日前	6回	有機リン系	
	ジノテフラン水溶剤 (アルバリン顆粒水溶剤又は スタークル顆粒水溶剤)	2,000	前日	3回	ネオニコチノイド系	
	アグロスリン水和剤	2,000	7日前	5回	合成ピレスロイド系	

\*農薬の登録内容は平成20年6月30日現在